

### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2020年6月)

2020年度第1四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は6兆4,410億円となりました。株式などのリスク性資産の上昇と資金流入により、残高はコロナショック前の2019年12月末の水準までほぼ回復しました。収益率をみると、株式などのリスク性資産の収益率がプラスとなり、株式の組み入れが一定程度あるマルチアセットも収益率がプラスとなりました。資金流出入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で1,719億円が流入しています。分類別では、マルチアセット型への資金流入が最も多く、663億円が流入しました。また、海外株式への資金流入額も597億円と過去の平均を上回りました。

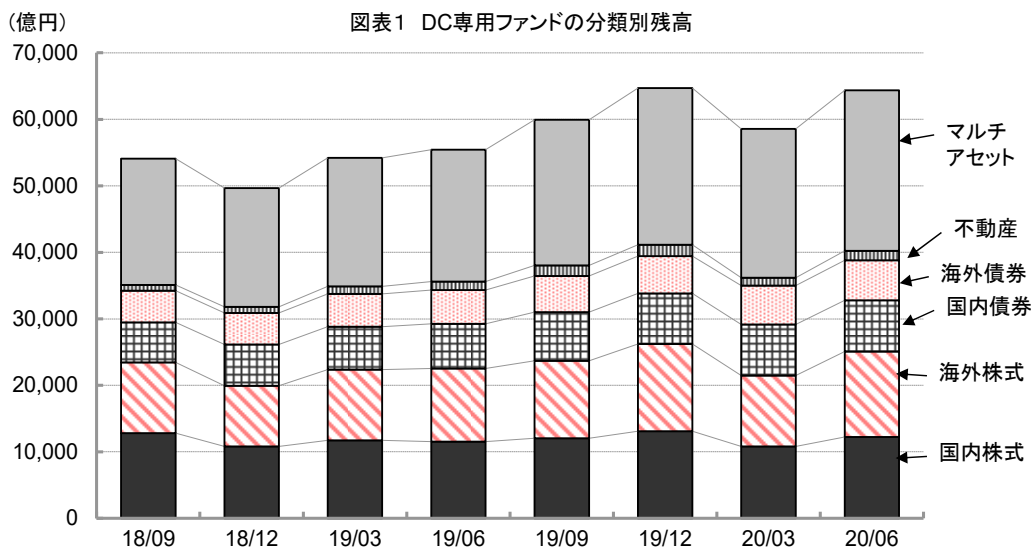
#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2020年度第1四半期(4月～6月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は6兆4,410億円と、2020年4月以降の株式市場の上昇を受けて、前四半期から10%程度増加しました(図表1)。

すべての資産の残高が増加し、特に海外株式

は20%ほど残高が増加しました。マルチアセットも資金流入と株価上昇により8%増加し、残高は2兆4,140億円とコロナショック前の2019年12月末の残高を上回る水準まで回復しました。

分類別残高構成をみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の37.5%を占めています。内外株式の時価が増加したため、確定拠



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

出年金専用ファンド全体の中でのマルチアセット型の比率は前四半期から低下しました。マルチアセット型の中では、主に資産配分が固定されているバランス型が中心となっています。ただし、ターゲットイヤー型の残高の伸び率は20%となり、バランス型の8%を上回りました。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ39%、21.3%となり、前四半期と比べて、前者は2.3%増加、後者は1.7%低下しました。今期は、株式ファンドの時価が増加したためです。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を

中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、30.9%と、前四半期に比べ0.6%減少しています。国内資産の比率は5四半期連続の減少です。海外資産を中心に運用するファンドは、前四半期から1.1%増加し、29.3%となっています(この比率はマルチアセットなどのハイブリッド型はいずれにも分類していません)。

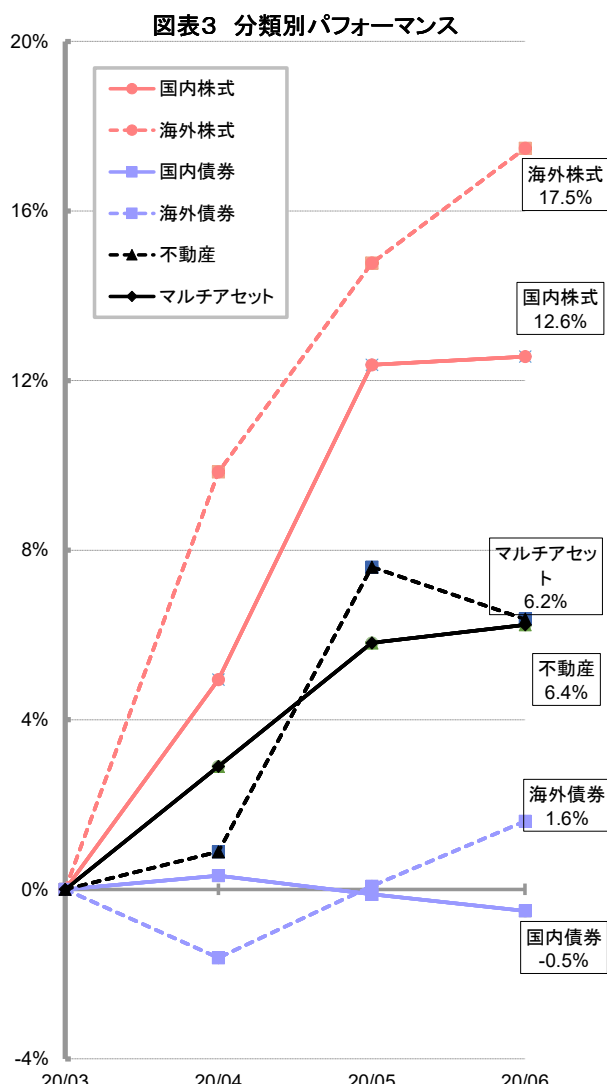
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は77.7%となり、前四半期から0.5%低下しました。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	18/09	18/12	19/03	19/06	19/09	19/12	20/03	20/06
国内株式	12,826	10,797	11,731	11,544	12,063	13,113	10,808	12,224
アクティブ運用	4,870	3,973	4,321	4,259	4,390	4,755	3,814	4,331
パッシブ運用	7,955	6,824	7,409	7,286	7,673	8,358	6,994	7,893
海外株式	10,623	9,145	10,610	10,989	11,621	13,104	10,688	12,871
アクティブ運用	2,295	1,941	2,268	2,331	2,380	2,681	2,218	2,721
パッシブ運用	8,328	7,203	8,342	8,658	9,241	10,423	8,470	10,150
国内債券	6,031	6,200	6,479	6,727	7,320	7,615	7,643	7,688
アクティブ運用	895	913	950	981	1,005	1,008	1,003	1,002
パッシブ運用	5,136	5,287	5,529	5,746	6,316	6,606	6,640	6,686
海外債券	4,741	4,734	4,948	5,082	5,441	5,607	5,837	6,017
アクティブ運用	538	532	553	561	578	584	587	605
パッシブ運用	4,203	4,201	4,395	4,521	4,863	5,023	5,250	5,412
不動産	884	931	1,131	1,265	1,586	1,690	1,229	1,424
マルチアセット	18,968	17,862	19,301	19,837	21,887	23,573	22,344	24,140
バランス型	16,327	15,234	16,444	16,839	18,690	19,810	18,626	20,067
ターゲットイヤー型	340	354	369	397	429	474	460	554
アセットアロケーション型	2,301	2,274	2,488	2,601	2,768	3,289	3,258	3,520
残高合計	54,113	49,709	54,241	55,486	59,961	64,746	58,592	64,410
残高割合								
国内株式	23.7%	21.7%	21.6%	20.8%	20.1%	20.3%	18.4%	19.0%
海外株式	19.6%	18.4%	19.6%	19.8%	19.4%	20.2%	18.2%	20.0%
国内債券	11.1%	12.5%	11.9%	12.1%	12.2%	11.8%	13.0%	11.9%
海外債券	8.8%	9.5%	9.1%	9.2%	9.1%	8.7%	10.0%	9.3%
不動産	1.6%	1.9%	2.1%	2.3%	2.6%	2.6%	2.1%	2.2%
マルチアセット	35.1%	35.9%	35.6%	35.8%	36.5%	36.4%	38.1%	37.5%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

### 分類別パフォーマンスの推移

図表3は2020年度第1四半期におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は、前四半期に大きく株式などのリスク性資産が下落した反動で、株式や社債などのリスク性資産の価格が上昇しました。国内株式、海外株式の収益率はそれぞれ12.6%、17.5%となりました。

また、今四半期は、国内株式、海外株式いずれもアクティブファンドの収益率の平均がパッシブファンドの収益率の平均を上回りました。銘柄間の値動きの差が広がり、より投資銘柄を限定した方が有効的であったため、と考えられます。

マルチアセット型については、平均すると6.2%の収益率となりました。株式の組み入れが大きく、新興国株式・債券あるいはREITなどの配分が大きいファンドほど上昇幅は大きくなりました。不動産(REIT)は、株価上昇の影響を受け、6.4%とプラス収益となりましたが、株式と比較すると上昇幅は抑制されました。

海外債券は、リスクオンの流れを受けた円安によりプラスの収益率となりました。一方、国内債券については金利がわずかながら上昇し、マイナス収益率となりました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2019年度第1四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額一解

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	19/04~ 19/06	19/07~ 19/09	19/10~ 19/12	20/01~ 20/03	20/04~ 20/06
国内株式	51	142	-7	68	131
海外株式	263	612	161	491	597
国内債券	190	573	373	70	84
海外債券	119	294	80	186	123
不動産	121	168	103	-36	117
マルチアセット	528	1,738	767	1,113	663
資金純流入合計	1,272	3,528	1,478	1,891	1,719

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

約額)の推移を表したものです。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第3四半期)に比べると447億円増加し、1,719億円となりました。前四半期に引き続き、前年よりも資金流入額は増加しています。

特に海外株式への資金流入が過去と比べて

多く、リスク性資産の下落局面で逆張りの株式へ運用商品をスイッチングする動きが多かったようです。また、新規のDC専用ファンド設定の動きも今四半期は活発で、魅力的な商品増加により加入者の資産運用のモチベーション向上につながることを期待されます。

— 次号のお知らせ —

次号は

**8月17日(月)**

発行予定です。

#### 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込)(20万円以下の場合)、2,808円(税込))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

#### 野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル  
TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981  
Email: nenkin@jp.nomura.com

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。